

2013年度自己評価シート 近江聖書学園 水口幼稚園

本年度教育目標(年主題)		共に生きる力を		担当	歳児	組	氏名	自己評価	
評価項目	目標及び実績			取り組み状況と結果・課題			評価(5段階)	その理由	
	本年度重点的に取り組むことが必要だと思われること	その理由	方策(具体的な取り組み方)	第1保育期	第2保育期	第3保育期			
教育目標教育課程(方針)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども中心の保育 年齢、発達過程に合わせたプログラムを行う。 子どもたちにとって本当に必要な事をする。 見通しをもって保育計画をたてる。 ゆったりした保育 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとって本当に必要な保育をするため 子どもの自発性を刺激し、引き出すため 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちに寄り添い、今何を楽しんでいるのか、どんな思いしているのかという理解に取り組む。 子どもをよく観察した上で、保育計画をたてる。臨機応変に対処していく。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは、子どもたちとの信頼関係を築くことに励んだ上で、子どもたちの様子を見ながら、本当に大切なことは何かを考えて保育することができた。さらに一人ひとりに丁寧に関わっていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事が多く、忙しくなりがちだが、自発活動の時間もしっかりと取ることを意識することができた。子どもと一緒に遊ぶことが子ども理解につながった。理解したことを保育に活かしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども中心の保育ができるよう子どもの様子を観察したうえで、工夫してかかわることができた。さらに深めていくように努める。 	4.2	子ども中心の保育・本当に必要なことができる保育に重点をおくよう意識は高いが、まだ、不十分な部分もある。	
子どもとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと様々な体験を共有する。 一人ひとりを大切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ありのままの自分を受け入れられることが、子どもの自信や自発性につながる。 体験を共有することで信頼関係を築く 子どもの遊びが深まるようにするため 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味のある事を積極的に保育に取り入れる。 子どもがやりたいと思う事が存分にできるように配慮する。 集団の育ちだけでなく、子の育ちにも目を向ける 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒に遊ぶことで、何に興味があるのか、何が好きなのか、その場所が落ち着くのかを少しずつ探しながら関係を深めた。さらによく観察し、遊びや関係を深めることで、自己発揮につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味に合わせて保育内容を臨機応変に対応させていくことができた。それぞれの保育者が子ども理解に率先して努めた。一人ひとりに丁寧に関わり、さらに安心して遊びこめる環境を整えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと様々な活動を一緒にし、達成感等の感動を共有することで、子どもが安心して活動することにつながった。進んで一人ひとりの様子を理解しようとした。 	4.1	子どもの様子をよく観察し、共感することを大事にしている。一人ひとりへの関わりも大切にしている。さらに自発性を引き出せるよう遊びの深めたい。	
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 冒険の森の活用 子どもをよく観察し、何が必要かをよく考えて準備する。 園内清掃 	<ul style="list-style-type: none"> 子どものやりたい遊びが思いついた時に、展開できるようにするため。 子どもたちがきれいに片付けたり、掃除しようという思いを育むには、まず職員が園内をきれいにすることが必要だから。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なものがすぐでてくるような、準備しておく。 子どもたちをよく観察する。 保育後、一生懸命掃除する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動が広がる環境作りが心にかけているがまだまだ不十分である。さらに子どもをよく知る必要がある。掃除や後片付けなどを職員全員が意識して取り組むことができた。今後も意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊びたい事を実現するために、様々な準備を意識してしているが、まだまだ用意不足である。子どもの実情に合わせ、さらに遊びが深まる工夫をすることが必要である。冒険の森は保育者も率先して遊ぶことで、遊びに広がりを見せている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備、園内清掃に努めているが、まだまだ気づきや意識が弱い。子どもとの片付けの時間は自発性を引き出すよう進んで声掛けをしたり、見守ったりすることができた。 	4.3	環境整備・園内清掃など努力はみられたが、気づきや意識をもっと高めていく必要がある。	
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の気持ちをまずは受けとめる。 話しやすい、相談しやすい雰囲気作り。 信頼関係を築く。 保育方針を伝える。 保育方針をわかりやすく丁寧に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で行われているすべてのことに、保育的なねらいがあり、子どもの育ちのためになされているということを理解してもらう。 信頼関係を築くことで、保護者も安心して子どもを送り出せる。また園の保育方針が伝わりやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスだよりを充実させる。 日頃から保護者との会話を大切にし、保護者の思いを知る。 保護者と信頼関係を築き、保育者として大切にしていることを自信を持って伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス便り等で子どもの様子を保育のねらいを含めて伝える努力をすることができた。保護者の気持ちに寄りそえるよう職員一人ひとりが丁寧に関わろうとしている。さらに関わりを深めていくことで子どもの育ちにつなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者一人ひとりが保護者との会話の重要性を理解し、共に子どもの育ちを考える手立てとしている。ひきつづき努力していく。また、クラス便り等で子どもの様子だけでなく、保育方針についても伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と積極的に関わり、工夫して接することができた。また、クラス便りやコラム、日頃の会話を通して意識して保育方針を伝えることに励んだ。引き続き努力が必要。 	4.1	積極的に務めた。個々の保護者全員の安心・理解につながるようさらに励むことが大切である。	
組織運営(クラスとして、全体として、他の保育者との)	<ul style="list-style-type: none"> 複数担任制を活かす 担任間の連絡を密にする 学び合う 定時退勤をめざす 園内研修をする 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者同士、違いに気づき、学びあうことができる。子どもたちにとってよりよい保育ができる。 保育者も自分らしさを活かす保育を心がけることが重要である。 仕事以外の生活も充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任間で報告、連絡、相談を行う。 お互いの保育から学び、自分自身の保育を向上させていく。 月1回園内研修の時を持ち、学ぶ。 仕事の進め方を工夫し、時間を有効に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの保育者が「報・連・相」を意識的に心がけ、子どものために必要なことができるよう協力しようと懸命である。園内研修はとても効果がある。複数担任制であることで、お互い高め合おう事ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数担任制のため、様々な視点を持つことができた。園内研修やクラスミーティング等でお互いの考えを知り合い考えを共有する事もできている。さらに子どもの育ちのために連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスによって報告・連絡・相談ができていたかどうかはさまざまであるが、子どもたちのためにそれぞれのやり方で工夫して協力し合えるよう努めた。また、いろんな保育者がいることで学び合いもできた。 	4.1	各クラスで差があるが、協力しようとする意識は高い。複数担任制の良さを生かせるようお互いに努める努力が必要。	
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> インクルージョンの徹底。 一人ひとりの違いを認め、活かす。 子どもの様子をよく観察し理解を深める。 広い視野を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 違いをお互いに認め合い、ともに生きていくため。 よく観察することで、理解をより深め、さらにより関わりができるようにするため。 特別支援児童が孤立する事なく、みんなの中の一人として過ごしていくため。 	<ul style="list-style-type: none"> 広い視野を持ち、他の子ども巻き込んでいく。 発達の理解を深めたり、思いを理解して共有できるようよく観察して保育に生かす。 一人ひとりの良いところを意識的に伝え、力を活かし合う保育をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年長・年中児では、一人ひとりを大切にしながらも、全員でできる方法を子どもたちと共考えたり、支え合うことができた。年少は少しずつ一人ひとりがお互いの違いの良さを認め合えるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士がお互いを理解し合い、共に過ごす様子が見られる。さらによく観察しながら関わり、本当に必要な援助が一人ひとりにできるように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自発的に友だちを助け、寄り添う姿が見られるようになった。一人ひとりへの関わりについては、今、職員が考えられる一番良いことができるように励んでいるが、まだまだ勉強・努力が必要である。 	4.5	子どもどうしが自然と認め合う姿がみられるようになった。保育者も一人ひとり考え、工夫して関わる事ができている。	
研修	<ul style="list-style-type: none"> 進んで、興味のある研修に参加する。 研修で学んだことを日々の保育に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに保育の質を高めるため。 日々学び、考え、保育の向上に努めるため。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修にできるだけ参加し、学ぶ。 自分自身の体験を保育に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで参加し、日々の保育に生かせるよう励んでいる職員が多い。参加できていない職員も、やる気があるので今後参加できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で良き学びの時を持っている。日々の保育を大切にしながらももっと学んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で学んだことを日々の保育に生かすことができた。本をたくさん読んだものが多かった。 	4.1	参加した研修については、学び・日々の保育につなげている。時間を有効に使い、もっと研修に参加できるようにしていく。	
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の様々な不安に対応していく。 親子での遊び場を提供していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援をするため。 様々な情報が溢れる現代、何が子どもにとって大切かを伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者一人ひとりとよい関係を築き、会話を大切にする。 つくし親子ひろばを行い、保護者の思いや、不安に寄り添う。また、同じ思いを持つ保護者との出会いを設けることで、孤立感を取り除き安心してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場で保護者との会話を大切にしている。未就園児広場では、安心できる雰囲気作りを心がけている。定期的に子育てフォーラムを開催できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が子育て支援の必要性を感じ、保護者の声に応えよう、感じようと努力している。つくし親子ひろばでは、遊び環境の提供や子育て不安の解消に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラス・つくし広場等で保護者の悩みに寄り添うことで、子育て不安の解消につながった。話しかけやすい雰囲気・表情で関わり、まずは安心してもらうことに努めたことがよかった。 	4	子育て中の保護者の不安を取り除けるよう努力できている。	
自己研鑽	<ul style="list-style-type: none"> テーマを持って一年過ごす。 人任せにせず、自分が責任を持って行動する。 自分の幼稚園という意識を高く持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の反省を生かすため。 より保育の質を高めるため。 様々なことを経験し、学び、自分自身の向上に努めることが保育の現場に役立つから。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の反省を忘れず、保育に生かす。 自分を評価することで、客観的に自分を見つめ直し、自分らしさを保育の中に出せるようにしていく。 やりたいことをやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの職員が自分についてしっかり考えることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの職員が自分の課題をみつめ、改善しようと努力している。本を読む等さらに学ぼうとする意欲が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの職員が自分についてしっかり考えることができています。 	4.1	それぞれの職員が自分の姿を見つめ、高めようと努力している。よくがんばっている。	

※評価項目については別紙資料参照

来年度取り組むべき課題

子ども中心の保育を行うための、職員の意識が高まっている。しかし、その実践に向けては模索中である。さらに勉強し、相談し、人的にも物的にも環境整備していく必要がある。来年度も年主題に基づいて、職員が一丸となり、インクルージョンの徹底や複数担任制の活用等に励んでいかなければならない。

学校関係者の評価

特別支援教育や複数担任制、子どもたちへの関わりが高く評価された。職員が多くいるが、全員が同じ目標に向かって、しかし一人ひとりが自分らしく保育に臨むことを大切にしてほしいとの意見があった。また、目標及び実績の欄に保護者では評価しにくい部分があるため、工夫と配慮が必要ではないかとの指摘があった。その他は特に指摘すべき事項ははく、妥当と判断された。